

陳情第15号

児童のマスク着用および感染症対策に関する陳情書

(要旨)

この度は陳情の機会をいただき誠にありがとうございます。
2020年から新型コロナウイルス予防の感染症対策を国民、市民が協力し合って行ってきました。新型コロナウイルスと共存して2年半が経ち、花粉症の時期も終わり熱中症の時期にもなって参りましたので、マスクなどの感染症対策を解除していく風潮になってきていますが、感染症対策が常識化してしまった今、なかなか学校の方でも今更マスクを取るよう促すのが困難になってきていると聞いています。厚生労働省は去年も熱中症対策としてマスクを外して良いと公表していたものの、なかなかそれが学校の職員には行き届かずといった傾向にあったのではないのでしょうか。その事も踏まえ、今一度感染症対策がもたらす児童の成長過程への影響も考慮し、市からも学校及び子どもが集まる流山市公共施設に呼びかけを強化していただきたく陳情させていただきたいと思えます。

そもそも10代以下の児童が新型コロナウイルスで死亡したという事例は極めて稀で、厚生労働省令和4年4月26日報告によると2年半の期間の中で12名にとどまっています。更に4月26日時点で重症化している10代以下の児童は6名と報告があります。このように厚生労働省が公表する数字は莫大な資料の中に埋もれてしまい、コロナウィルスの恐ろしさばかり報道されてしまった結果、日本全国で2年半における10代以下累計死亡者数が12名というレベルの病気の対策として、マスク着用、ソーシャルディスタンス、仕切り板、黙食、修学旅行や運動会の中止などといった対策が2年半に渡り取られてきました。

マスクに関しては、寒い冬や花粉症の時期が終わり、熱中症の時期に入ってきています。それに伴い最近では千葉県熊谷知事もマスクを外すようSNSで呼びかけをしてくれています。しかし、冒頭にも述べましたように今学校では常識化したルールを今更止めることが先生も児童も抵抗があるという状況になっているよう

ですので、マスクをした時のリスクというもの学校の先生に周知させる必要があるのではないのでしょうか。例えば昨年には小学生の児童が、体育の授業でマスク着用のまま持久走中に倒れてしまい、健康な子どもが死亡するというニュースがありました。また修学旅行ではマスク着用で就寝するよう指示している学校もありました。マスク内で長時間呼吸することは二酸化炭素過多になり、偏頭痛の原因となったり、口呼吸により免疫が下がったり、歯周病の原因になることが指摘されています。また、年齢が下の幼稚園児、小学生低学年の児童が、人の表情がはっきり分からないまま育つことへの精神的成長欠如のリスクも懸念されておりますし、喘息などの呼吸疾患の児童もいます。いまだにこのような子どもたちに学校のルールで同調圧力がかからないよう流山市の学校に市の方からも呼びかけをお願いできれば幸いです。

児童のマスク以外にも、ソーシャルディスタンス、仕切り板、黙食、修学旅行や運動会の中止などといった対策に関しましては、コミュニケーション能力を育てるという学校の大切な課題が損なわれるのではと心配しております。感染症対策を始めた2020年から子どもの不登校、引きこもり、自殺が増える傾向にあり、文部科学省の調査によりますと昨年不登校の小中学生はおよそ19万6000人と前年度から比べても1万5000人近く増えて過去最多になっています。更に今までは不登校と言えば、いじめなど友人関係が主な原因とされていましたが、統計によりますと、いじめは減少傾向となり、逆に無気力、不安、生活リズムの乱れというコロナ感染症対策が原因の1つに挙げられており、文部科学省児童生徒課でもコロナ禍による学校や家庭の環境変化が子どもの行動に大きな影響を与えていると分析しています。添付資料の今年4月末の厚生労働省速報にもあるように2020年から累計2年半における10代以下のPCR陽性死亡者が12名ですが、その一方で2020年に自殺した10代以下の児童の数が415名であり、前年度と比べても100名近く増加しています。過剰なコロナ感染症対策で無気力や不安を助長してしまうのでは本末転倒です。さらに今後は、AIが進歩することで更なるコミュニケーション能力が必要とされる中、コミュニケーション能力が

損なわれるような感染症対策が今後どう影響するかも心配です。本当に人と人とのコミュニケーションを断つようなソーシャルディスタンス、仕切り板や黙食といった感染症対策は子どもの成長過程に問題を残さないのかを今一度振り返る必要があるのではないのでしょうか。流山市は日本全国の中でも特に子どもの数が多い市でありますことから、以上のことを充分注意して学校に問題の呼びかけをお願いしたいと思います。

参考資料：

新型コロナウイルス感染症の国内発生動向（速報値）（令和4年4月26日24時時点）

（陳情項目）

- 1 教育、保育の場、流山市の公共施設にあたっては、コロナウィルスの脅威ばかり煽るのではなく、熱中症が増える時期の感染症対策としてのマスク着用の危険性の啓発もお願いしたい。
- 2 教育、保育の場ではコミュニケーション能力を育てることに重点を置き、過剰な感染症対策が不登校を助長していないか再度検討し、引きこもりや自殺撲滅活動にも力を入れてもらいたい。

以上

令和4年5月23日

陳情者



流山市議会議長 森 亮二 様